

■ 4 研究に関する事項

2012年度は第5次長期計画3年目となる。既に実施している各種施策についてはより一層の推進を、未実施の施策については計画の実現に向けた具体的な展開を推し進めていく。

また、国の各種研究政策等の諸情勢を視野に入れつつ、龍谷大学が従来から持っている“強み”や“特色”を有機的に連携させることにより、将来的には他大学に類を見ない一大研究拠点を形成することをめざしつつ、まずは、世界に通用する先進的な研究機関としての礎を築く。

第5次長期計画の実現に向けては、2011年度に引き続き、「強みのある研究と特色ある研究の推進」「研究評価制度」「社会から評価される研究の推進と外部資金の確保」「研究成果の社会に向けた発信力強化」「研究支援体制の整備と新展開」を研究事業計画の柱としつつ、「総合大学としての多様性と学際性を生かし、伝統と地域を基盤にした特色ある研究や国際水準の強みのある研究に取り組み、国際的な学術文化の向上と科学技術の振興、地域社会の発展に寄与する」という第5次長期計画における『研究にかかる基本方針』に則った積極的な事業展開をおこなう。

1 強みのある研究と特色のある研究の推進

「強みのある研究」と「特色のある研究」を本学の研究政策の中核として位置付けるとともに、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択をめざし、各研究プロジェクト遂行のための研究拠点を形成する。

●「強みのある研究」の推進

本学が優位性を有し、かつそれを推進することで高い社会的評価を得ることが期待できる研究を「強みのある研究」として位置付け、引き続きその推進を図る。2011年度に新たに構築した選定制度に基づき、2012年度においても優れた新規研究プロジェクトの発掘・選定を進める。

●「特色ある研究」の推進

本学の最も重要な特色のひとつといえる仏教研究とその関連分野の諸研究を「特色ある研究（仏教を機軸とした特色ある研究）」として位置付け、それを育成・振興することで将来的には他大学に類を見ない国際的な一大研究拠点を形成していく。2012年度については、そうした長期的な目標を念頭に置きながら、2011年度に引き続いて、複数存在する仏教研究プロジェクトを連携する仕組みの構築やその再編について検討をおこなう。

●研究高度化推進事業の推進

2012年度は、継続事業として「人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター」「アジア仏教文化研究センター」「地域公共人材・政策開発リサーチセンター」「アフラシア多文化社会研究センター」の4事業を実施する。さらに新規事業として2011年度に学内採択された①「グリーンプロセスによる物質生産技術開発—プロセス設計から高性能化・応用までの垂直統合型研究拠点—」研究プロジェクト

（革新的材料・プロセス研究センター）、②「文化財および学術資料の利活用のための次世代デジタルアーカイブ構築」研究プロジェクト（古典籍デジタルアーカイブ研究センター）、③「里山モデルによる持続可能社会の構築に関する総合的研究」研究プロジェクト（里山学研究センター）の3プロジェクトを「強みのある研究」として実施する。3つの「強みのある研究」のうち2つ（①②）を文部科学省「戦略的研究基盤形成支援事業」に申請し、残る1つ（③）を学内プロジェクトとして位置付ける。また3年目を迎える大学間共同利用機関法人人間文化研究機構が実施する地域研究推進事業として採択された「現代インド拠点」（委託研究事業）を継続実施するとともに、大学が特に必要と認めたプロジェクトとして「混一・暹理歴代国都之図研究プロジェクト」を引き続き実施する。

2 研究評価制度

●研究評価制度の構築

「強みのある研究と仏教を機軸とした特色ある研究の推進」、「付置研究所の推進体制」、「研究員制度」などについて、それぞれの研究評価制度のあり方を引き続き検討し、研究活動をより充実させるための適正かつ公正な研究評価制度の構築、その評価結果に基づく改革の推進をおこなう。

3 社会から評価される研究の推進と外部資金の確保

●外部資金の獲得

本学の研究活動をより活性化するために、引き続き各種外部資金の積極的な獲得をめざす。科学研究費に関しては、2011年度に各種の申請サポート制度を新設・充実したこともあって、新規申請件数が前年度比で30件増加した（88件→118件に増加）。2012年度は、そうした諸制度のさらなる拡充を図るとともに、新規申請件数だけでなく採択件数および採択額の増加につながる方策についても鋭意検討する。また、受託研究費及び奨学寄付金については、研究者個人の努力に加え、RECや知的財産センターとの一層強固な連携体制の構築をおこないつつ、本学の知的財産や研究シーズを有効に活用することにより2011年度以上の外部資金獲得をめざす。

4 研究成果の社会に向けた発信力強化

●研究者データベースの構築と活用

学校教育法施行規則等の一部改正に伴う研究者の学位及び研究業績の公開義務に対応すべく2011年4月に龍谷大学研究者データベースを公開した。このデータベースにおける研究者情報は独立行政法人科学技術振興機構が運営する「ReaD」へのデータ連携及び認証評価の各種データの基礎としても活用することを想定して構築していることから、登録情報のさらなる充実を図るとともに、学内外への情報発信力の強化や研究シーズの把握にもつながられるように努める。

- 情報の発信強化

様々な研究活動・成果の社会還元や広報活動を積極的に展開し、社会に対する訴求力を強化することにより、本学の研究活動に対する社会的評価の向上を図る。

5 研究支援体制の整備と新展開

- 研究支援体制の整備

昨今大学における研究者の研究分野が多岐にわたること

から、それぞれの研究分野に応じた研究支援体制の構築及び充実は不可欠な状況にある。各研究者がこれまで以上に積極的な研究活動をおこない得る環境を整備するために、現状の研究支援体制の課題を確認し、研究支援体制の整備及び強化に努める。